

中国語における文末付加型疑問文のイントネーションに関する観察 —正反タイプを中心に—

関 光 世

内容目次

- 0 はじめに
- 1 文末付加型疑問文の分類と特徴
 - 1.1 これまでの議論と問題点
 - 1.2 付加型の文法形式と基本義
 - 1.3 関（2005）の指摘
- 2 文末付加型疑問文の音声に関する二つの観察
 - 2.1 文末付加型疑問文の音声上の特徴
 - 2.2 〔観察1〕先行文と付加部分の文音調
 - 2.3 〔観察2〕文末のイントネーション
 - 2.4 まとめ
- 3 話者の心的態度と文末のイントネーション
 - 3.1 出現位置と聞き手の反応
 - 3.2 話者の心的態度と文末の上昇傾向
- 4 まとめと今後の課題

キーワード：文末付加型疑問文，正反タイプ，文音調，文末イントネーション，話者の心的態度

0 はじめに

筆者は関（2005）において、文末付加型疑問文に見られる文末上昇イントネーションが、話者のある特定の心的態度を表出する要素である可能性を指摘した。しかし「文末の上昇」についての判断は直感にのみ頼っていたため、その指摘は説得力を欠いていた。

従来、文末付加型の疑問文は主に諾否疑問文や正反疑問文などに帰納され、「文末付加型」に焦点をあてた、まとまった記述は見当たらない。しかしこの種の疑問文には複数の形式があるうえ口語において多用されるため、「文末付加型」という観点からその形式や意味上の特徴について整理し、特にその音声上の特徴について概観を得ることは、中国語学習者のコミュニケーション能力の向上の一助となると考えられる。

そこで本論では、主に正反タイプの文末付加型疑問文を取り上げ、文法形式や意味特徴を整理した上で、音声分析ソフトによる初歩的な比較・分析を行い、その音声上の特徴について概観を得るとともに、この種の疑問文に見られる文末の上昇イントネーションと話者の心的態度の関係について、一歩踏み込んで考察してみたい。

1 文末付加型疑問文の分類と特徴

1.1 これまでの議論と問題点

中国語初級学習者向けのテキスト『話す中国語 北京編1』は、「文末付加型疑問文」という枠組みを設け、その意味特徴から「先行文(S) + “怎么样”, “行吗”, “好吗”, “好不好”?’と「先行文(S) + “是吗”, “是吧”, “对吗”, “是不是”, “对不对”?’に下位分類している¹⁾。一方《速成汉语初级教程》综合课本(1)では文末に“好不好”, “是不是”, “对不对”が付加された疑問文を明確に正反疑問文に帰納している²⁾。このほか呂叔湘(1982)³⁾や『現代中国語文法総覧』⁴⁾における扱いを見ても、後者の分類が主流であることが伺える。さらには林裕文(1985)のように「文末付加型」という分類に否定的な見方さえあった⁵⁾。

しかし以下の例を参照されたい。

(1) 你别在我身边来回这么溜达好不好? (私の周りをそんな風にうろうろしないでくれるか?) 《胖》⁶⁾

(2) 陈主编: 这样才能有个新秩序, 大家才能够拧成一股绳儿。嗯, 那这样吧, 等他电话打完了, 请大伙儿到我办公室谈一谈, 把这些天悬在大伙儿心头上这点儿事儿呢, 让它落地。 (じゃあこうしよう。彼の電話が終わるのを待って皆に私の事務室に来てもらって議論し, ここ数日皆の心にひっかかっている問題に決着をつけよう。)

李冬宝: 对对对, 对。(そうだ, そうだ。)

陈主编: 好不好? (どうだい?) 《谁(下)》

例(1)はSだけを見れば禁止を表す命令文である。付加形式“好不好”の有無はSの成立に何ら影響していない。さらに例(2)の音声を観察すると、S(下線部)と付加形式(二重下線部)の間のポーズに聞き手のあいづちがわり込んだ形となっており、その独立性の高さが伺える。さらに以下の例を比較されたい⁷⁾。

(3) 你不能干, 对不对? (君にはできないんだ, そうでしょう?)

(4) 你今天不要去明天去, 好不好? (君, 今日行かずに明日行きなさい, どう?)

(5) 他昨天来过, 是不是? (彼は昨日来ました, そうでしょう?)

上の三例はいずれもSで事実或いは話者の判断を述べ、付加部分はそれに対する是非、聞き手の態度を問うもので、聞き手にその是非、態度についての意見表明を求めているという点で一致している。つまり疑問の焦点はいずれも下線部にあると考えるのが自然であり、例(5)

のみ疑問の焦点が存在しないとする林文の説明は説得力を欠く⁸⁾。

さらに、林文では“是不是”は文中で移動が可能であると述べるのみで、移動した場合の意味の変化には触れていない。しかしながら文末付加型が独特のモダリティを表すことはこれまでも断片的に指摘されており⁹⁾、また主語の前、述語の前、文末という出現位置は完全に任意であるわけではない¹⁰⁾。

本論は「文末付加型」という分類の是非を論ずるものではない。しかし以上の点を考慮し、また議論の対象を明確にするという意味から、ここでは「文末付加型疑問文」という枠組みを採用することにする。

1.2 付加型の文法形式と基本義

本論では「文末付加型疑問文」の文法形式を、邵敬敏(1990)¹¹⁾を参考にしたうえで、以下のように分類することにする。

1. 諾否タイプ (S+“对吗, 好吗, 行吗, 是吧, 对吧”)

付加形式が「付加成分(X) + 語気助詞“吗”, “吧”」のもの¹²⁾。

(6) 你以为我爱听, 是吗? (私が聞きたがると思ったの?) 《谁是(上)》

(7) 我说您客气一点儿行吗? (もう少し遠慮してもらえませんか?) 《谁是(上)》

(8) 王师傅也想弄个主编当当是吧? (王さんも編集長をやりたいでしょ?) 《胖》

2. 正反タイプ (S+“好不好, 是不是, 行不行, 成不成”など)

付加形式が「X不X」からなるもの¹³⁾。3つの基本タイプの中では最も多く見られ、中でも“是不是”の出現頻度が最も高い¹⁴⁾。

(9) 我说你怎么不早说, 逗我, 是不是? (何で早く言わないんだよ, からかったんだ, そうだろう?) 《水》

(10) 咱们一边吃一边聊, 好不好? (食べながら話しましょう, どうですか?) 《一》

(11) 现在啊, 咱也得关心关心戈玲了, 对不对? (今は戈玲のことも心配しなきゃならなくなっただよ, そうだろ?) 《无》

上記2つのタイプは付加部分が“行”, “好”など、態度を表明する性質の語で構成される場合、相手の意向を聞く意味¹⁵⁾になり、Xが“是”, “对”など判断を述べる語で構成される場合は、話者の述べた内容について聞き手が同意するかどうか、またその真偽について答えることを求める文になる。つまり基本的に聞き手に何らかの答えを要求する疑問文である。

3. 疑問詞タイプ (S+ “怎么样”)

このタイプを構成する疑問詞は唯一“怎么样”だけで、付加部分が“行”、“好”など、態度を表明する性質の語で構成される場合と同様、聞き手の態度表明或いは聞き手の意見を求める意味になる。

- (12) 一朝权在手，我是看你如何行啊，怎么样？ 《一》
 (ひとたび権力を手にしたら君がどうするか見てみようと思うんだ、どうだい?)
- (13) 我给你调个人来，怎么样？ (人を回してあげよう、どうだい?) 《胖》

以上の基本的なタイプに、それぞれ下例のような変形タイプがある。

a) “S+你说(看)+「付加形式」?”

- (14) 要是碰上那种人啊，我们一句好话都没有，犯得上拍他吗，您说是不是？《吃(下)》
 (そんな輩に出くわしたらお世辞なんて一言も言わないわ。持ち上げる必要なんてないもの、そうでしょ?)
- (15) 要是有人托你在你们这个杂志上边登两条反动标语，你看成不成？ 《一》
 (もし誰かが君達の雑誌に反動的な標語を載せてくれと頼んだら、どうだい?)

b) “S+「付加形式」, 人名?”

- (16) 这故事可不就是这么编出来的，是不是小林？ 《有》
 (物語というのはこうやって出来上がるものだよ、そうだろ、林さん?)
- (17) 我们年轻人也不会让你们顶这个雷，是不是冬宝、德利？ 《侵(下)》
 (私達若者だってあなた方を盾にしやすいわよ、そうでしょう、冬宝、德利?)

c) “S+你说呢?”¹⁶⁾

- (18) 这小保姆也是人嘛，应该平等相待、和睦相处，没有什么贵贱之分，你说呢，牛大姐？
 《小》
 (子守だって人間だもの、平等に相對し、仲良くすべきよ、貴賤の別なんてないの、そうでしょ牛さん?)
- (19) 这一拨不行，基本的娱乐设施都不具备。让他们回答吧。你说呢？ 《小》
 (このグループはだめ、基本的な娯楽設備さえないもの。お引取り願ひましょう、どう?)

a), b) のような変形タイプは文全体の基本的な意味には影響を与えないが、「聞き手を特定する」という情報伝達上の役割を果たしている。また、c) は文脈によって上の3タイプのい

ずれの省略型とも理解できる。

なお、本論では主に正反タイプをとりあげるが、疑問詞タイプを構成するのは“怎么样”のみであり、意味の上でも“好不好”、“行不行”と共通するので、これも含めて論ずることとする。

1.3 関（2005）の指摘

関（2005）では、従来「高音調で、文末は平板調からやや下降」（《汉语普通话语音辩证》，p189）と説明されている文末付加型疑問文を観察する過程で、直感的に文末がやや上昇していると感じられる例文の存在に気づき、両者を先行文（S）の特徴と発話意図から比較すると、文末が平板調のものと上昇調のものでは、表1にまとめたような相違点がみられることを指摘した。そして、正反タイプの文末付加型疑問文は聞き手に是非や態度を問うのが基本義であるが、話者が説得や動員など、強い同意要請の心的態度を持ってこの種の疑問文を発話する際には文末がやや上昇すると言えそうだ、という一応の結論を導いた。

Aの例：

(20) 哦，知道取了您那个水淹七军，是不是？↘ 《水》

（「水淹七军」をわれわれが頂いたってことに気付いたんだね？）

(21) 你们起哄了，是不是？↘ （私をからかっているのね，そうでしょう？）《小》

Bの例：

(22) 这您可就说差了。世界万物是原先就有的，人才是后来的。人呢，绝了不少动植物的种子，这可是真的，是不是？↗ 《胖》

（人間が多く動植物の種を減ぼしてきたのは本当のことだよ。そうだろ？）

(23) 哎呀，这牛编辑，我跟您说，这人跟人还不一样。有人不穿衣服他就冒汗，是不是？↗

（服を着なくたって汗をかく人間もいるんだよ，そうだろ？） 《胖》

(24) 农民兄弟为咱们种出了萝卜，运进城来，咱们帮助他们也就是帮助了咱们自己，对不对？↗

（彼らを手伝うってことは自分達を手伝うってことだよ，そうだろう？） 《胖》

表1

	A：文末が平板調から下降調	B：文末が上昇調（と思われる）
先行文（S）の特徴	付加部分を省略するとSを疑問文として理解しなければ不自然で、Sはこれから判断を確定しようとする未確定の情報。	付加部分を省略しても平叙文として理解が可能で、Sはすでに確定した話者の主張・判断。
発話意図	相手の態度・判断を問う「聞き手の判断伺い」	説得・動員など聞き手に対する強い「同意要請」

2 文末付加型疑問文の音声に関する二つの観察

文末付加型疑問文は口語で多用されるにもかかわらず、その音声上の特徴に関する記述はほとんど見当たらない。《实用汉语课本》に断片的な記述が見られるだけである¹⁷⁾。

本章では中国のテレビドラマ《編輯部的故事》¹⁸⁾ から収集した正反タイプの文末付加型疑問文計151例について、音声分析合成ソフトウェア「東方録聞見」¹⁹⁾ を使用して2種類の初歩的な観察を行う。まず先行文(S)と付加部分の文音調についての比較・分析をとおして、この種の疑問文の文音調について概観を得、次に、1.3の指摘の出発点である「文末がやや上昇している」と感じた例文について、その正体を明らかにしたい。その上で話者がそのイントネーションを採用したのはどのような心的態度を表そうとしたためなのか、関(2005)では強い「同意要請」であると考えたが、この点についても音声分析の結果と新たに収集した例文を参考に再度考察したい。

本来音響学的な分析のための録音は雑音や反響などを配慮した環境で、精密機器を用いて行われなければならない。しかし本論が注目するのは、文末付加型の疑問文が実際の言語コミュニケーションの中でどのような音声を伴って発話されるのか、またその音声は話者の心的態度によってどのように変化するのか、という点にある。従って、例文のみを取りあげ、インフォーマントに録音してもらうという方法では本来の目的に沿った観察は困難であること、またここでは文末付加型疑問文の音声上の特徴について概観を得ることが目的であることを考慮し、テレビドラマの音声をそのまま使用することにした²⁰⁾。

2.1 文末付加型疑問文の音声上の特徴

まず収集した例文を聴き比べ、感覚的にとらえることのできるレベルでこの種の疑問文の音声上の特徴について整理してみると、次のようなことが言える。

1. 先行文(S)と付加部分の間にポーズを設けることが多い。

文末付加型疑問文の多くは全文がSと付加部分の間のポーズで区切られ、2つの部分に分かれているように感じる。ポーズの長さは一定ではなく、短いものもあれば長いものもあり、時には前章で挙げた例(2)のように、ポーズの間に別の発言を挟むことすらある。

2. Sと付加部分の音調が異なるものがある。

Sと付加部分のピッチが滑らかに一体化して聞こえるものと、付加部分が高く突出して聞こえるものがある。これは諾否タイプの文末付加型疑問文の音声上の特徴について《实用汉语课本》²¹⁾ に、「ポーズを境にSは低音調、付加部分は高音調になる」と説明されているように、Sと付加部分の文音調の違いによると考えられる。付加部分の文音調がSと変わらない、つまり全体が1つの文音調からなるものと、付加部分がSよりも高い文音調になるものがあるようだ。

3. 文末イントネーションは主に平板調である。

一般的に正反疑問文の文末イントネーションは「平板か或いは僅かに下降する」と言われる²²⁾。例文を観察してみると平板調が多い印象²³⁾があり、文末付加型であっても基本的にはこのイントネーションに変化はないようだ。しかし、文末が上昇或いは下降していると思われる例もある。

2.2 観察1 先行文と付加部分の文音調

前節で述べた音声上の特徴を手がかりに、例文のピッチ曲線を調べ、第一にポーズの有無で分類し、それぞれについてSと付加部分の文音調を観察する。

以下の図はそれぞれ図の上を示した例文を分析した波形図とピッチ曲線である。ピッチ曲線は例文の下線部のみ表示する。ピッチ曲線上の縦の直線が付加部分の始まりである。

図1は、全文がSと付加部分の間のポーズで区切られ、2つの部分に分かれているように感じた例文の典型的なものである。上段の波形図において、Sと付加形式の間に直線の部分が確認できるが、この部分が無声部分つまりポーズである。

図1 (25) 陈主编：咱们回来细谈，好不好？（帰ってから詳しく話そう、それで良いだろう？） 《歌（上）》

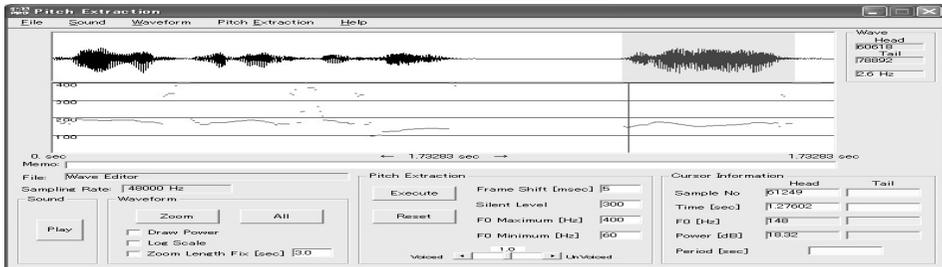


図2は全文が一体化して聞こえる例文の典型的なものである。

図2 (26) 戈玲：你别自我感觉太好好不好？（あまり自信過剰にならないでよね。） 《无》

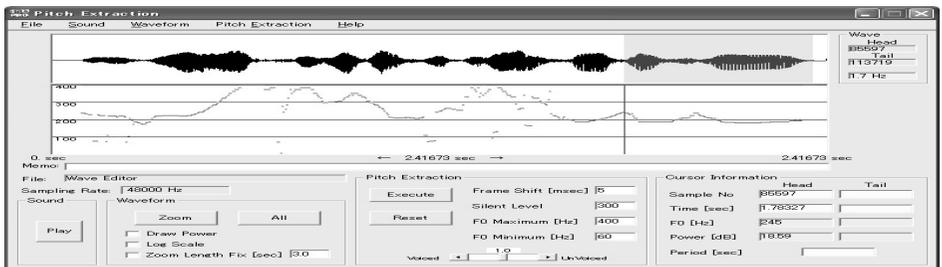


図1ではSの“咱们回来细细谈”と“好不好？”の間に無声部分があり、ポーズが確認できる。一方の図2では無声部分が確認できない上に、Sの最後の音節“好”が二声に変調していることがわかる。

観察の結果、151例中ポーズを確認できないものが43例で全体の約30%を占めた。またポーズの有無は主要な登場人物、付加形式の区別なく見られた²⁴⁾。

次にSと付加部分の文音調を観察してみる。

下図3と4の付加部分のピッチを比較されたい。これは同一人物（余德利）による発話で、いずれもSの最終音節の声調は第四声、付加形式は“是不是”である。

図3 (27) 余德利：你吃饱了有劲儿是不是？（腹一杯になったら力がでたってのかい？）
《飞》

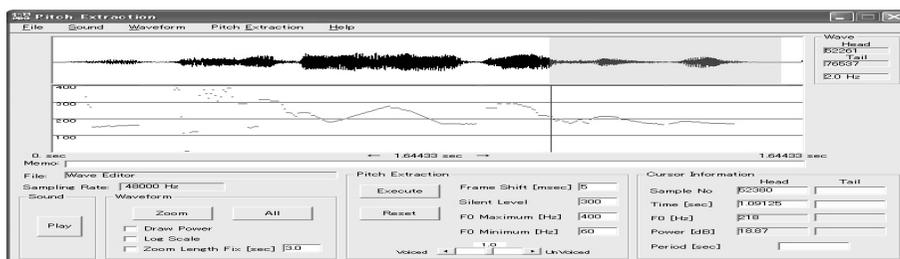
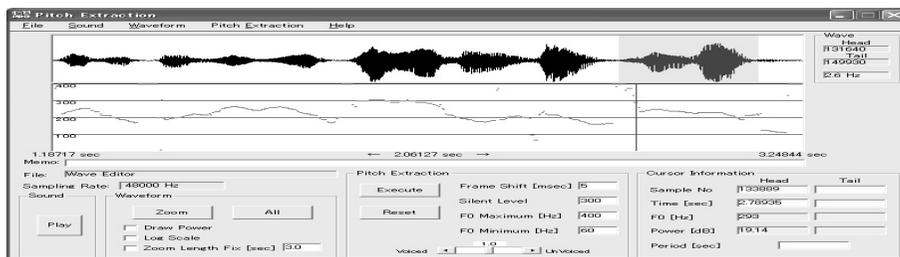


図4 (28) 余德利：…对，就好比您刚一进来，就好比咱是一家人一样，是不是，啊，“我的姐夫”？（あなたが入ってこられて家族のように感じました，そうではありませんか？「ワドキエフ」さん。）
《谁（下）》



上図3で、付加部分のピッチ曲線は図2の“好不好”と同様Sの最終音節と繋がって全体としてひとつの文音調となっている。この点はポーズの確認できない他の例文でほぼ共通している。

一方図4はポーズによってSの音調が途切れ、Sの最終音節と付加部分の第一音節とは同じ第四声でありながら、付加部分がSの末尾よりやや高めに調整されて発話されている。ポーズをとることで音調のリセットが起こっている、とすることができる。

別の話者（戈玲）や他の付加形式でも同様の現象が観察できる。

図5、6はいずれもSの最終音節は第四声，付加形式は“是不是”である。Sの最終音節と付加部分の第一音節に注目すると，図5では付加部分の第一音節は，Sの最終音節の下降傾向を引き継ぐ形で発話され，文全体として文音調がひとつになっている。一方，図6の付加部分は図5のようにSの末尾で下降した最後とほぼ同じ高さから始まるのではなく，ポーズによってSの音調がリセットされ，付加部分の第一音節がSの最終音声とほぼ同等の高さにまで調整されて発話されている。

図5 (29) 戈玲：拿我开涮是不是？（私をからかうの？） 《小》

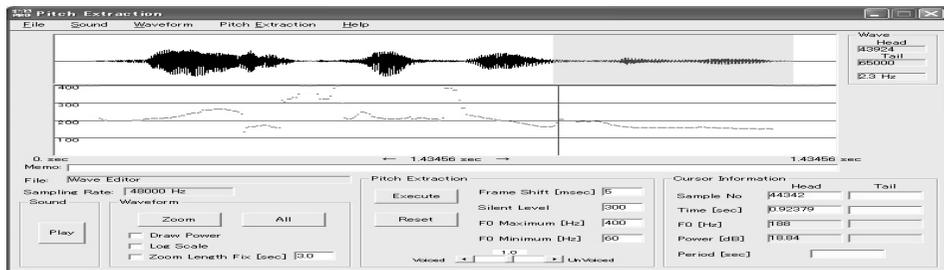
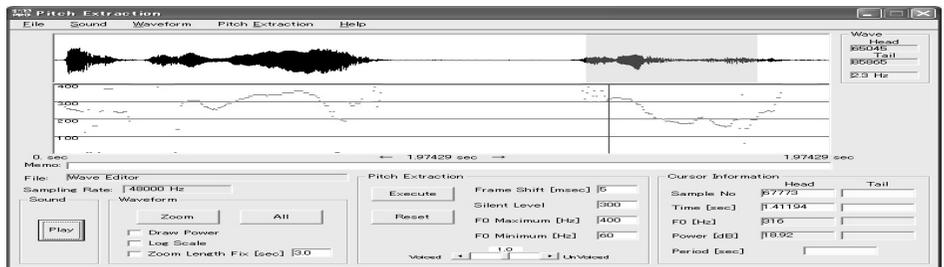


図6 (30) 戈玲：百吃不厌，是不是？（いくら食べても飽きないんでしょ？） 《水》



下図7、8は同じく戈玲の発話で，付加形式が“怎么样”の例である。比較されたい。

図7 (31) 戈玲：…你看着顺眼的不一天到晚地跟你找别扭的烦人，怎么样？ 《娶（上）》

（見た目が良くって一日中あなたとそりの合わないような相手を探すのよ，どう？）

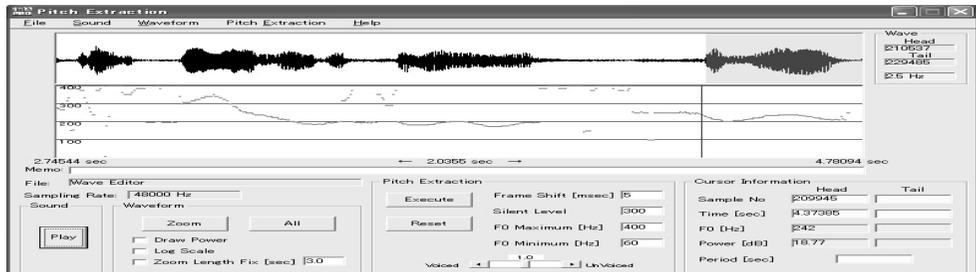


図8 (32) 戈玲：一见钟情，殊途同归，怎么样？（一目ぼれで、行き着くところは同じ、どう？） 《我》

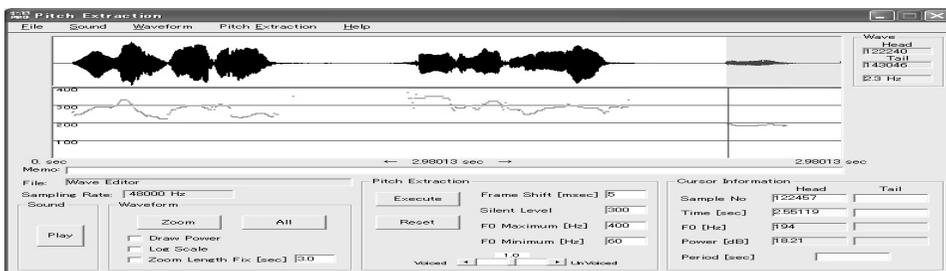
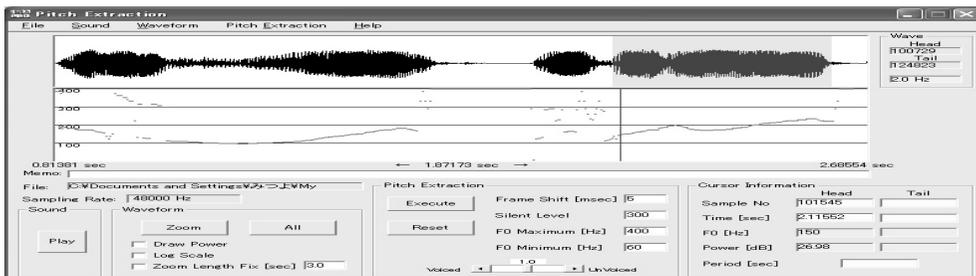


図7ではSの最終音節（第二声）よりも付加部分の第一音節（第三声）がわずかに高めであるのがわかるが、図8はSの最終音節が第一声であるため、本来の声調に矛盾しないとも言え、ここでは音調のリセットははっきりしない²⁵⁾。

更に別の話者（陳主編）でも観察してみる。もう一度図1を参照されたい。付加形式は“好不好”で、ポーズによって文音調がリセットされ、付加部分がSの末尾よりやや高めに調節されているのがよくわかる。

次の図9では付加部分の上昇傾向がさらに顕著に観察できる。

図9 (33) 陳主編：怪我怪我，好不好？（私が悪い，私が悪い，それでいいだろう？）《娶（上）》



以上の観察から、文末付加型疑問文は一般的に「全文がSと付加部分の2つの部分からなり、その間にポーズを置く」と理解されている²⁶⁾が、正反タイプについて言えば、約30%は主要な登場人物・付加形式の区別なくポーズを設けず、文全体がひとつの文音調から成る（図2, 3, 5）ことから、ポーズは必ずしも成立のための必要条件ではないことがわかる。

正反タイプの文末付加型疑問文において、ポーズはSの文音調をリセットし、付加部分の文音調を調整するという役割を果たしている。Sの文音調はポーズによってリセットされ、付加部分はおおむねSの末尾よりもやや高めに調整されて発話される。ただし、その程度は一定ではない。図8のように、文音調の違いがほとんどないように見えるものもあれば、図4, 7, 9

のように、比較的はつきりと見て取れるものもある。いずれにしても感覚的に付加部分が「高く突出して聞こえた」のは、この文音調のリセットと調整によるものであったとすることができる。

2.3 観察2 文末のイントネーション

観察1から正反タイプの文末付加型疑問文には、ポーズの有無と分音調のリセット・調整の有無によっておおむね二種類のパターンがあることがわかった。ここでは関(2005)で「文末がやや上昇している」と感じた例をとりかかりに、文末に焦点を絞って「文末上昇」の正体を明らかにしたい。

まず1-3で「文末がやや上昇している」例として挙げた(22)、(23)について、ピッチ曲線を確認してみる。

図10 (22) 王师傅：人呢，绝了不少动植物的种子，这可是真的，是不是？（人間が多くの動植物の種を減ぼしてきたのは本当のことだよ。そうだろ？）

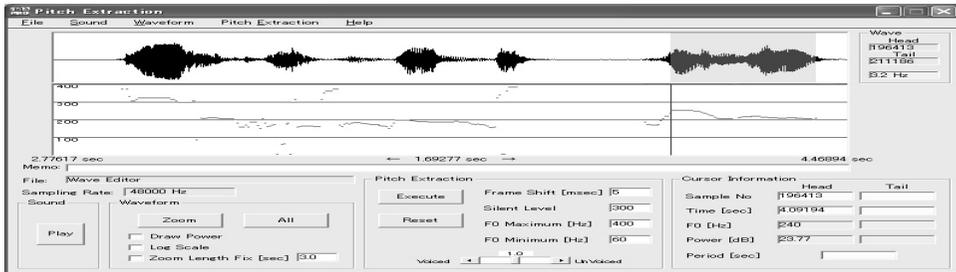
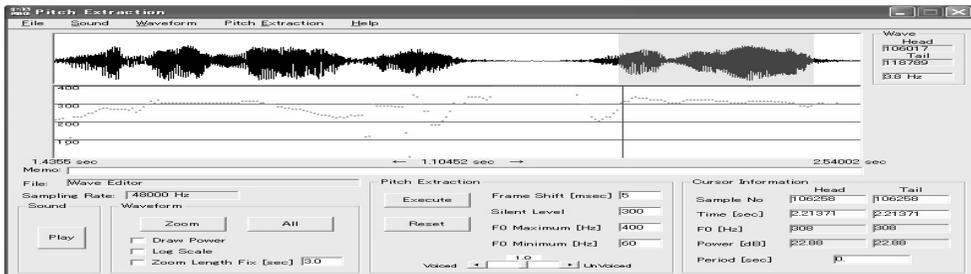


図11 (23) 王师傅：有人不穿衣裳他就冒汗，是不是？（服を着なくたって汗をかく人間もいるんだよ，そうだろ？）



上の2例はいずれもポーズによってSの文音調をリセットし、付加部分をやや高めに調整して発話されている。しかしこれらの図でも明らかなように、付加部分は平らで、文末にも目立った上昇は観察されない²⁷⁾。次に今回新たに収集した例文のうち、上と同一の付加形式で文末が上昇していると感じた例を分析してみると以下ようになる。

図12 (34) 陈主编：…要不人家还不愿意给呢，是不是？ 《水》

(そうでなければあの人たちだってくれやしないよ，そうだろう?)

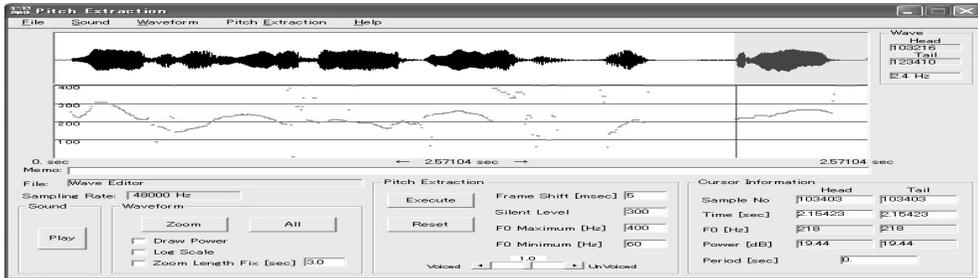


図13 (35) 警察：满嘴胡说八道，是不是？ (でたらめを言まくってる。そうだろう?)

《一》

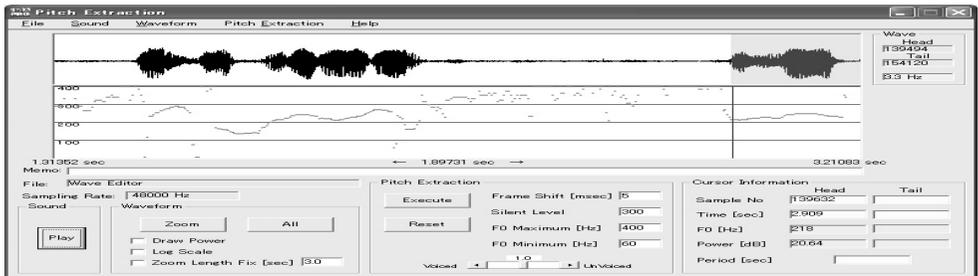


图14 (36) 余德利：咱们不怎么样也得想主意把这问题解决了吗，是不是？ 《一》

(どうしても方法を考えて問題を片付けなきゃ，そうだろう?)



図15 (37) 陈主编：…也没长什么瘤子，是不是？（こぶがあるわけじゃなし，そうだろう？） 《胖》

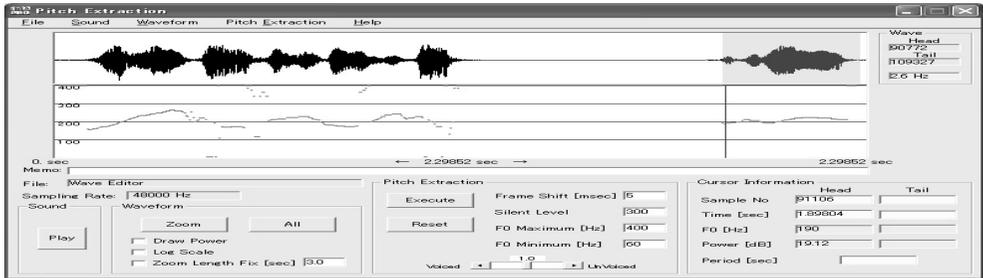
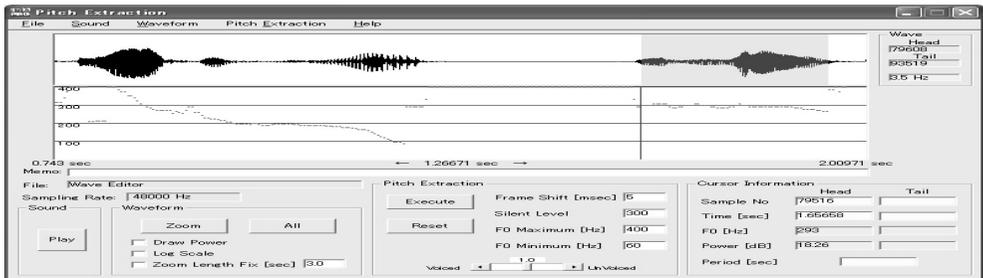


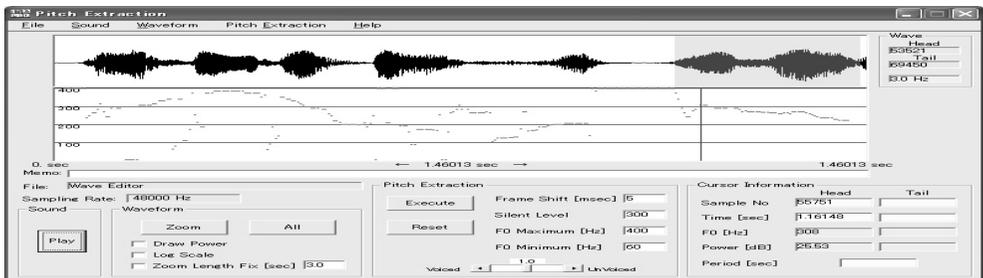
図16 (38) 牛大姐：还说警察态度不好，是不是？（その上警察の態度が悪いって言ったでしょ？） 《歌（下）》



上の5例は，いずれもポーズによってSの音調がリセット・調整され，かつ付加部分自身が文末にかけて平らからわずかに右肩上がりであるという共通点がある。

以下の例と比較すれば，付加部分の違いがより鮮明になるだろう。

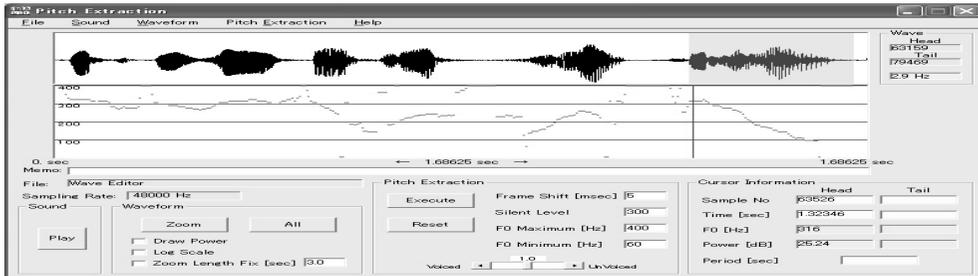
図17 (39) 王师傅：冬宝！你说你这样合适吗？ 咱都这么大人了，是不是？ 《胖》
（冬宝！これが正しいことかい？俺達大人じゃないか，そうだろう？）



この発話は例 (22)，(23) と同一話者で，ポーズによってSの文音調をリセット・調整しているが，付加部分が下降傾向を示している。次に挙げる例は，例 (34) と同一話者で，同じくポーズによって文音調がリセット・調整されているが，付加部分の下降傾向ははっきりとして

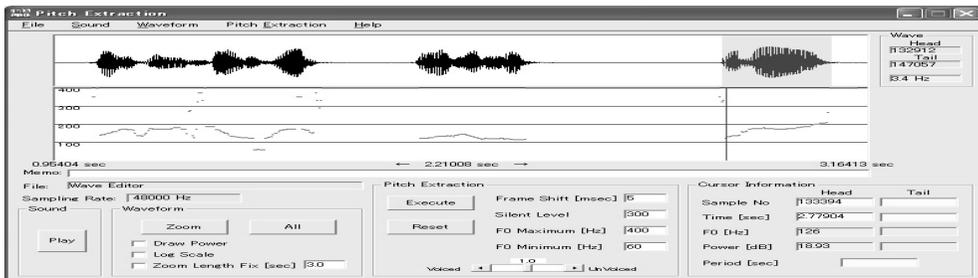
いる。

図18 (40) 陈主编：如果是他把刘小红救了，又解决了他自身的一个大龄未婚的难题儿，这不是因祸得福吗，是不是？（もし彼が劉小紅を助け，またいい年をして未婚だという難題をも解決したのなら，まさに「災い転じて福となる」じゃないか，そうだろう？）《我》



次に別の付加形式「好不好」で「文末が上昇している」と感じた例についても観察してみる。付加成分“好”は第三声であるため，上昇調を示した時の変化が大きい²⁸⁾。以下の例を参照されたい。

図19 (41) 莫仁远：按照市场价折成现金给你们，好不好？（市場価格で現金に替えて進呈するよ，どう？）《甜》



上の例では付加部分全体が明らかに右肩上がりで，かつ最終音節の上昇も観察できる。例(33)の“好不好？”でも同じことが言える。

以上の観察から，ポーズによってSの音調がリセットされ，付加部分の音調が高めに調整されて発話される場合，付加部分の文音調自身がさらに下降，平板，上昇の異なるパターンを持つことがわかった。無論その決定にはさまざまな要素が複雑に関係していると考えられ，上昇や下降の程度は一定ではないが，関(2005)で「文末がやや上昇している」と感じたものはおおむね付加部分の文音調が平板のものと上昇しているものであった。つまり，感覚的にとらえた「文末の上昇」は，第一にSの音調がリセットされ，付加部分の文音調がSよりも高く調整されている，第二に付加部分の文音調が文末にかけて平板から上昇している，という理由に

よるものであったと考えられる。

2.4 まとめ

以上感覚的な判断から出発し、音声分析ソフトの助けを借りて正反タイプの文末付加型疑問文の文音調パターンについて初歩的な分析と観察を試みた。その結果、正反タイプの文末付加型疑問文にはおおむね以下のような文音調のパターンがあることがわかった。

- 1型：Sと付加部分の間にポーズがなく、文全体がひとつの文音調で発話される。付加部分の文音調は文末にかけて平板調から下降調を示す²⁹⁾。
- 2型：Sと付加部分の間のポーズによってSの文音調がリセットされ、付加部分の文音調がSの末尾よりやや高めに調整して発話される。付加部分は文末にかけて平板調から下降調を示す³⁰⁾。
- 3型：Sと付加部分の間のポーズによってSの文音調がリセットされ、付加部分の文音調はSの末尾よりも高く調整して発話される。さらに付加部分が文末にかけて平板調から上昇調を示す。

3 話者の心的態度と文末のイントネーション

音声分析ソフトを用いた分析と観察によって、これまで直感的に「文末がやや上昇している」と感じたものの正体は付加部分の文音調の上昇傾向（平板調から上昇調）であったことが明らかになった。本章では文末付加型疑問文の会話における出現位置と聞き手の反応つまり返答からこの上昇傾向と話者の心的態度との関係を考察したい。

3.1 出現位置と聞き手の反応

実際の会話において、正反タイプの文末付加型疑問文は単独或いはひとまとまりの発言の最後に現れる場合と発言の中間に現れる場合がある。単独或いは発言の最後に現れた場合、下例のように直後に聞き手の反応が示されることが多い。

(42) 余德利：跟机器人跳舞能出什么事儿啊。要是人嘛，就不一定了，是不是冬宝？

李冬宝：对啊……欸，把我看成什么人了？ 《人》

(ロボットと踊ってどんな事が起きるって言うんだ、人間だったらわからないけど。そうだろ、冬宝?)

正反タイプの文末付加型疑問文は、話者が自己の意見を主張したり、他人を説得・動員しようとする場面で出現することも少なくない。以下の2例を参照されたい。話者は付加型疑問文

の後で聞き手の答えを待つことなく自分の主張を続けており、また聞き手もこの問いに答えてはいない。もし聞き手がこれらの場面でそれぞれの疑問文に答えて発言をし始めたなら、話者が心積もりしていたその後の主張が行き場を失い、コミュニケーションが円滑に行えなくなるだろう。このことは、この疑問文によって特に答えを求めているわけではなく、引き続き主張したいという話者の意図を、聞き手が正しく解釈していることを物語っている。

(34) 陈主编：老牛，这说明他们干得好，要不人家还不愿意给呢，是不是？ 个把萝卜说明不了什么问题。我倒是要是让你们去帮着人家扛个冰箱、彩电什么的，你们要抱回来几个那个就不合适。啊？

(牛さん、それは彼らがよくやったという事だよ。そうでなければあの人たちだってくれやしないよ、そうだろう？大根の一本や二本では何の問題も説明できやしない。もっとも君達が冷蔵庫やカラーテレビを運ぶのを手伝って、何台か抱えて帰ってきたらまずいだろうけどね。) 《水》

(37) 陈主编：开玩笑就更不应该的。再别玩儿这减肥的把戏了。立即停止。恢复王师傅进食，啊。减什么肥呀，我看王师傅挺好看的嘛。也没长什么瘤子，是不是？ 这说明咱们的生活水平日益提高，你在埃塞俄比亚找个胖子出来给我看看。

(冗談ならなおさらだ。二度とダイエットなどするんじゃない。すぐに止めなさい。王さんの食事を再開するんだ。何がダイエットだ。王さんは格好良いじゃないか。こぶがあるわけじゃなし。そうだろ？ このことは我々の生活レベルが日増しに上がっているという事を物語っているのだよ。エチオピアで太った人を探して連れてきてみなさい。) 《胖》

次の表は音声分析の結果を参考にして付加部分の文音調の傾向（上昇，平板，下降）ごとに、文末付加型疑問文の出現位置と聞き手の反応（確認や態度表明の有無）をまとめたものである。参照されたい。

この表から、下降調はほぼ発言の最後或いは単独で発話される場合に観察されており、付加

表2

文音調	出現位置	文音調	聞き手の反応
上昇傾向14例	最後・単独	6例 (43%)	有 3例 (20%)
	発言の間	8 (57%)	無 11 (73%)
平板傾向48例	最後・単独	21 (44%)	有 17 (35%)
	発言の間	27 (56%)	無 31 (65%)
下降傾向30例	最後・単独	27 (90%)	有 22 (73%)
	発言の間	3 (10%)	無 8 (27%)

部分が平板調及び上昇調のものは、出現位置と聞き手の反応という点で下降調のものとは明らかな違いがみられることがわかる。文末の上昇イントネーションには聞き手の注意をひきつけ、話がまだ続くことを表す働きがあることが知られている³¹⁾が、発言の最後や単独で発話される場合にも上昇傾向が観察できることから、それ以外にも文末を上昇に向かわせる何らかの要因が存在する可能性があると考えてよいだろう。また、発言の最後或いは単独で現れた27例のうち17例は聞き手を限定したものであった。1.2で変形タイプとしたこのような例で付加部分が上昇傾向になることはきわめて稀である。以下の例を参照されたい。

(38) 牛大姐：欸！你们年轻人呢，碰到这挫折，就情绪消沉，那哪成啊？工作哪有一帆风顺的？风风雨雨，坎坎坷坷我们不都挺过来了，是不是老刘？

(あなたたち若者ときたら、ちょっと挫折したからって落ち込んじゃって。そんなことでどうするの？順風満帆な仕事などあるわけないでしょ。どんな苦しみも困難も私達は克服してきたのよ、そうでしょ劉さん?) 《娶(下)》

刘书友：嗯？噢，对对对对。都挺过来了。

上のように、その場にいる全員に自己の考えを述べておいて、発言の最後になって聞き手を限定した場合、特定の相手に答えを求めたい話者の意思は明らかである。下線の付加型疑問文から末尾の“老刘”を省略すれば、聞き手は不特定多数のままであり、答えを求めているかどうかは明確でなくなる。

平板調と上昇調の例では二種類の出現位置に数の上で差はなく、聞き手が何らかの反応をす割合は下降調に比べていずれも低い。

これらのことから、付加部分が平板調から上昇調の場合、聞き手に答えを要求しない傾向が強くなるのではないかと考えられる。

3.2 話者の心的態度と文末の上昇傾向

文末付加型疑問文の基本義は事の真偽や話者の提案について聞き手に態度の表明あるいは回答を求めることにあった。前節で指摘したように、文末が平板調から上昇調の場合、聞き手に答えを求めない傾向が強くなるのならば、話者はどのような心的態度を表すためにそのイントネーションを採用したのだろうか。

再度例(34)、(37)及び下の例(24)を参照されたい。

(24) 陈主编：现在是满载着萝卜的车队已经浩浩荡荡地从农村开进城市了。

余德利：真快。

陈主编：由于数量大，卸车不及时，造成了部分地区的交通紧张。那么各单位呢，都派

人帮助卸车，那咱编辑部也不能落后啊。

大伙儿：对对对。

陈主编：农民兄弟为咱们种出了萝卜，运进城来，咱们帮助他们也就是帮助了咱们自己，对不对？（彼らを手伝うってことは自分達を手伝うってことだよ，そうだろう？）

大伙儿：没错

牛大姐：你不用再给我们做动员了。这点儿道理大家都明白。咱们去就是了。

（これ以上動員する必要はないわ。そのくらいのことわかってるわよ。）

以上の例における話者の発言の目的は例（24）で牛大姐が指摘（下線部）しているように、聞き手の説得と動員である。このような場合付加部分を省略したところで主張には何ら影響はない。それは関（2005）では「確定性が高い」と表現したが、S自身が極めて強い話者の主張或いは確定してゆるぎない（と話者が信じる）事実であることに起因する。

さらに以下の2例を参照されたい。

(33) 陈主编：不过我劝你，条件呢，不要要求得太高了，啊。欸，啊，好好好。怪我，怪我，好不好？当时如果她看不上我，你说我一厢情愿也不行啊？啊，好好好。咱们不谈这个了，啊。

（条件はあまり厳しくしないことだよ。わかった，わかった。私が悪い，私が悪い，それで良いだろう？ あの時彼女が私を見初めてくれなかったら，こっちが一生懸命になったってだめだったろ？ わかったよ。この話はもう止めよう。） 《娶（上）》

(25) 陈主编：征求一下读者对我们刊物的一些意见。啊，啊。那太好了，啊。那咱们回来细谈，好不好？ 我挂了，啊。

（じゃあ帰ってから詳しく話そう，それで良いだろう？） 《歌（上）》

上の2例はいずれも電話の相手との会話で、話者はこれ以上話を続ける意思がない。自分の主張を伝えると同時に、暗に聞き手が自分の考えに同調することを求め、話を終わらせようとしている。ここで付加部分はいわば「念を押す」とも言える役割を果たしている³²⁾。

以上を総合すると、関（2005）では、「強い同意要請」であると考えたが、文末付加型疑問文における上昇調は、むしろ話者が聞き手の注意を集め、自分の主張や判断に同調させ、聞き手或いは議論を自分の思う方向へと誘導したいという心的態度の表れであり、このような心的態度がSの文音調をリセット・調整し、かつ付加部分を平板調から上昇調させる要因のひとつなのではないかと考えられる。

4 まとめと今後の課題

本論は関（2005）を出発点とし、文末付加型疑問文の音声上の概観を得、さらにこの種の疑問文における特定のイントネーションと話者の心的態度の関係についてさらに考察を深めることを目的とした。より説得力を持たせるために音声分析ソフトを使用することにし、きわめて初歩的な分析と観察を行ったところ、文末付加型疑問文の先行文（S）と付加部分の文音調について、おおむね以下のようなパターンにまとめられることがわかった。

1型：Sと付加部分の間にポーズがなく、文全体がひとつの文音調で発話される。付加部分は文末にかけて平板調から下降調を示す。

2型：Sと付加部分の間のポーズによってSの文音調がリセットされ、付加部分はSの末尾よりやや高めに調整して発話される。付加部分は文末にかけて平板調から下降調を示す。

3型：Sと付加部分の間のポーズによってSの文音調がリセットされ、付加部分の文音調はSの末尾よりも高く調整して発話される。付加部分は文末にかけて平板調から上昇調を示す。

分析の過程で、関（2005）で「直感的に文末がやや上昇している」と感じた例は、主に3型に属し、付加部分が文末にかけて平板調から上昇調を示すものであることが解明できた。

さらに、この種の疑問文の文末の上昇傾向と話者の心的態度について、出現位置と聞き手の反応から考察した結果、イントネーションの決定に関係する要素は多様であるため一因であるに過ぎないものの、正反タイプの文末付加型疑問文では話者が聞き手に答えを求めず、会話の参加者の注意を集め、自分の主張に同意し、聞き手や議論の流れを自分の思う方向へ誘導したいといった心的態度を表す場合に、付加部分は平板調から上昇調を示す傾向があると結論づけた。

今回音声分析ソフトの使用は初めての試みであり、きわめて初歩的な分析と比較しかなしえなかったことが悔やまれる。今後は諾否タイプの文末付加型疑問文についても音声と意味の関係を観察してみたい。また、この種の文型で圧倒的な多数を占める“是不是”の付加型について、文末付加型でない正反疑問文との比較についても関心を持つに至った、あわせて今後の課題としたい。

注

- 1) 『話す中国語』北京篇1 董燕・遠藤光暁 朝日出版社 2001, 教授用資料p27を参照されたい。
- 2) 《速成汉语初级教程》综合课本(1) 郭志良主编 北京语言文化大学出版社 1996, p359では“在句首加上‘是不是’或在句尾加上‘是不是’等疑问形式所构成的疑问句也是正反问句。”と説明されている。
- 3) 吕叔湘は《中国语法要略》p285の正反疑問文の例文として、特に何の説明も加えずに“祝赞你老寿活八十, 好不好?”を挙げていることから、これを正反疑問文として扱っていることが伺える。
- 4) 『現代中国語文法総覧』刘月华ほか くろしお出版 1996のp132で“是不是”を用いる反復疑問

- 文]、p671で「好吗”、“行吗”、“对吗”、“可以吗”などを用いる諸否疑問文」という項目を設け、その中で文末付加型について言及している。
- 5) 議論の詳細は林裕文(1985) p91を参照されたい。まとめると、林は①「付加疑問文」は主述構造の文である、②“你今天不要去明天去，好不好？”“你不能干，对不对？”の疑問の焦点は“好不好”，“对不对”自身にあるが，“他昨天来过，是不是？”には疑問の焦点がない。③“好不好”，“对不对”は文中における出現位置が固定されているが，“是不是”は他の位置に移動が可能である。などを根拠に漢語の疑問文に「付加疑問文」という下位分類を設ける必要はないと主張している。
 - 6) 《 》は例文の出典を表す。例文出典リストを参照されたい。
 - 7) これらの例はいずれも林文から。
 - 8) 注5を参照されたい。
 - 9) 杉村博文『中国語文法教室』p48を参照されたい。ここでは“我把话说重了，是不是？”，“中国人爱用茶招待客人，是不是？”を例にあげ，“是不是”を文末におくと，自分の意見を相手に押し付ける，ちょっとあつかましい疑問文になることがあります。」と指摘している。この「相手に押し付ける」という感覚が，関(2005)で言うところの「強い同意要請」と関連し，また特定のイントネーションを生む要因の一端になっているのではないかという漠然とした印象がある。
 - 10) 『現代中国語文法総覧』p675を参照されたい。「是不是？」を使っても，確証を得ようとしているのではなくて，むしろ相手の同意を求めている場合があり，このときは相談をもちかける口調を帯び，“…好吗？”の意味を持つ。この語気を表す“是不是？”は通常述語の前に用い，時に主語の前に用いられることもあるが，文末には使えない。
 - 11) 邵敬敏 1990 <“X不X”附加问研究>《徐州师范学院学报》第4期を参照されたい。
 - 12) Xが否定形のもの(例えば“不是吗”，“不对吧”など)も含む。
 - 13) 邵文では“S+懂不懂？”“S+美不美？”のようなものも付加型に含むが，本論ではXが動詞・形容詞からなる一時的な組合せのものは含まない。出現頻度は極めて低いが“会不会”や“可不可以”などは正反タイプに属するものと考え。しかし本論では扱わない。
 - 14) 例文は《编辑部的故事》のVCD全24集から収集した計151例。そのうち“是不是”は90例，その他は“对不对”16例，“好不好”21例，“行不行”3例，“成不成”6例，“怎么样”15例である。
 - 15) 『話す中国語』北京篇1 教授用資料p27を参照されたい。
 - 16) “S+語気助詞‘啊？’，‘嗯？’”で，語気助詞が独特のイントネーションで発話された場合には，文脈によって上の基本タイプのいずれにもなり得るとい印象があるが，ここでは扱わないことにする。
 - 17) 『実用漢語課本』日本語版1 p443を参照されたい。ここでは文末付加型としてではなく，文末に“好吗”を用いた疑問文についてのみ次のように説明されている。「…“好”の前までは低い音調だが，この部分の末尾は下降ではなく少し上昇させる。…“好”は強く読んで長くのばし，上昇させ，“吗”とともに文末上昇の高音調を構成する。」。
 - 18) 《编辑部的故事》全24話(北京电视艺术中心音像出版社 脚本：王朔：冯小刚)
 - 19) Windows対応 音声分析合成ソフトウェア「音声録聞見」ダイテル株式会社
 - 20) そのため，雑音や効果音などのために音声としては分析不能であったり，観察に適さない例文もあり，収集した例文全てを観察の対象にしたわけではない。
 - 21) 注17を参照されたい。
 - 22) 《汉语普通话语音辨正》北京语言文化大学出版社p189を参照されたい。
 - 23) 全体のうち平板調と感ずる例は80例を占めた。
 - 24) 主要な登場人物と付加形式についてポーズの有無を調べたところ，以下のとおりであった。

登場人物	有 無		付加形式	有 無	
	有	無		有	無
余德利(男)	19	15	是不是	77	22
李冬宝(男)	14	5	对不对	15	2
刘书友(男)	2	1	行不行	2	1
陈主编(男)	15	1	成不成	1	5
戈玲(女)	13	9	好不好	11	10
牛大姐(女)	6	2	怎么样	9	6

- 25) 図8のようにSの最終音節と付加部分の第一音節の声調によっては、音声分析の結果を見てもはっきりと判断できない場合がある。
- 26) これまでに挙げた『現代中国語文法総覧』、『中国語文法教室』、『話す中国語』『实用漢語課本』、『速成汉语初级教程』などのテキストに見られる文末付加型疑問文の例文は例外なく全て“S, 付加形式?”のように読点(,)が表記されている。
- 27) 関(2005)では文中に上げたもの以外にも上昇調と感じた例を挙げている。そのうち“用文言说, 就是粗, 是不是?”(8)はポーズによるSの音調のリセット・調整がはっきりしなかった。“我给你调个人来, 怎么样?”(19)はポーズがなく, 文末にかけての上昇は確認できなかった。“陈主编: 咱们帮助他们也就是帮助了咱们自己, 对不对?”(18)は効果音が原因で正確な分析が困難であったため挙げないが, 付加部分がわずかに右肩上がりなのは観察できた。()内の数字は関(2005)における例文番号。
- 28) 声調とイントネーションの関係について, 最も知られている説明は赵元任(1979)の“将音节和句子的语调比作小波浪跨在大波浪上面。实际结果是两种波浪的代数和。正加正则数值增大, 正加负则减少。”(p28)である。曹剑芬(2002)はこの説明を基礎に実験によって, 同じ音節であってもイントネーションという大波の高い部分にのっているか, 低い部分にのっているかでその音の高さや音域が異なることを指摘し, このことから「上声のようにもともと低い音が大波の高い部分にのれば相対的に高く, 大波の低い部分にのればさらに低くなる」と説明した。赵が示した(1979, p365)上声の文末上昇モデルに従えばそのピッチは2145と末尾が大きく上昇するので, これが文末の上昇イントネーションという大波にのった場合, その上昇はより明確になると考えられる。
- 29) 1型と2型の違いは主にポーズの有無である。付加部分の文音調は1型が明らかにSの文音調と一体化しているのに対し, 2型は明確に判断するのは難しい。
- 30) 2型と3型の違いは主に付加部分の音調が先行文と比べて高めに調整されているか否かにある。注25でも述べたように前後の声調によって「高め」の判断がはっきりしないもの, また3型に分類した付加部分の高さとの客観的な基準があるわけではないため, このような分類にせざるを得ない。漠然と2型に属する例文の付加部分は弱く, 3型に属する例文の付加部分は強く発話される傾向があるという印象を持った。プロミネンスと関係があるのかもしれない。
- 31) 『現代中国語総説』p108の<上昇調>についての記述を参照されたい。
- 32) 注9を参照されたい。

参考文献

- 北京语言学院編 相原茂監修 1991『实用漢語課本』[日本語版1] 東方書店。
- 郭志良主編 1996《速成汉语初级教程》综合课本1 北京语言文化大学出版社。
- 董燕・遠藤光暁 2001『話す中国語』北京篇1 朝日出版社。
- 李明・史佩雯 1986《汉语普通话语音辨正》北京语言文化大学出版社。
- 刘月华・潘文娉・赵淑华著 相原茂監訳 1996『現代中国語文法総覧』くろしお出版。
- 吕叔湘 1982《中国文法要略》商务印书馆。
- 杉村博文 1994『中国語文法教室』大修館書店。
- 北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 [編] 松岡榮志・古川裕 [監訳] 2004『現代中国語総説』三省堂。
- 城生伯太郎編 2001日本語教育学シリーズ<第3巻>『コンピュータ音声学』(株)おうふう
- 赵元任 1979《汉语口语语法》商务印书馆。
- 邵敬敏 1990<“X不X”附加问研究>《徐州师范学院学报》第4期。
- 曹剑芬 2002<汉语声调与语调的关系>《中国语文》第3期。
- 林裕文 1985<谈疑问句>《中国语文》第2期。
- 関光世 2005「中国語における疑問文の文音調と文末上昇イントネーションに関する試論」『京都産業大学論集』第33号。

例文出典リスト

《编辑部的故事》北京电视艺术中心音像出版社 脚本：王朔 冯小刚

《谁（上）》	第1集	谁主沉浮（上）	《侵（上）》	第13集	侵权之争（上）
《谁（下）》	第2集	谁主沉浮（下）	《侵（下）》	第14集	侵权之争（下）
《我》	第3集	我不是坏女孩	《谁是（上）》	第15集	谁是谁非（上）
《小》	第4集	小保姆	《谁是（下）》	第16集	谁是谁非（下）
《一》	第5集	一朝权在手	《娶（上）》	第17集	娶个什么好（上）
《无》	第6集	无中生有	《娶（下）》	第18集	娶个什么好（下）
《有》	第7集	有人好办事	《水》	第19集	水淹七军
《胖》	第8集	胖子的烦恼	《甜》	第20集	甜蜜的腐蚀
《歌（上）》	第9集	歌星双双（上）	《飞》	第21集	飞来得星星
《歌（下）》	第10集	歌星双双（下）	《寻》	第22集	寻子记
《吃（上）》	第11集	吃不消（上）	《人》	第23集	人工智能人
《吃（下）》	第12集	吃不消（下）	《人民》	第24集	人民帮人民一把

The Examination on the Intonation of Additional Questions in Chinese Language

— Focus on the Affirmative-negative Type —

Mitsuyo SEKI

CONTENTS

- 0 Introduction
- 1 Classification and features of Additional Questions.
 - 1.1 Previous studies and questions raised.
 - 1.2 Grammatical pattern and basic meaning of Additional Questions.
 - 1.3 Remarks made by Seki in 2005.
- 2 Two phonetic examinations on Additional Questions.
 - 2.1 Phonetic features of Additional Questions.
 - 2.2 [Observation 1] Sentence Prosody in preceding paragraph and additional paragraph.
 - 2.3 [Observation 2] Intonation at the sentence end.
 - 2.4 Conclusion
- 3 Speaker's modality and intonation at the sentence end.
 - 3.1 Difference in Listener's reaction depending on position.
 - 3.2 Speaker's attitude and rising Intonation at the sentence end.
- 4 Conclusion

Keywords: Additional Questions, Affirmative-negative type, Sentence Prosody, Rising Intonation, Speaker's attitude